

鹿児島大学病院で MRI 及び CT 検査を施行される患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床上の研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針（平成 19 年度）」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 肝血管腫における Gd-EOB-DTPA 造影 MRI 所見とダイナミック CT 所見の比較検討と Gd-EOB-DTPA 造影 MRI における pseudo washout の検討

[研究機関] 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
先進治療科学専攻腫瘍学講座放射線診断治療学教室

[研究責任者] 教授 中條 政敬

[研究の目的] 近年、肝腫瘍の診断において Gd-EOB-DTPA（ガドリニウムイオオビーディーティーピーエー；最近登場した MRI で使用する造影剤で、以前のガドリニウム造影剤の情報に加えて、肝細胞に取り込まれる性質を有し、情報が増えます）を使用した造影 MRI 検査の有用性が報告されてきています。肝血管腫は最も頻度の高い良性の肝腫瘍であり、悪性の肝腫瘍と区別する必要がありますが、肝血管腫の Gd-EOB-DTPA を使用した造影 MRI 画像のまとまった報告はありません。また、ダイナミック CT で認められる肝血管腫の特徴的画像の一つである遷延性造影効果（造影剤注入後 3～5 分後の撮影で肝臓よりも白く見える）は、Gd-EOB-DTPA を使用した造影 MRI では見られる頻度が少なく、pseudo washout sign（シュードウォッシュアウトサイン；造影剤注入後 3～5 分後の撮影で肝臓よりも黒く見える）と呼ばれますが、解明はなされていません。従って、肝血管腫の Gd-EOB-DTPA を使用した造影 MRI 画像を明らかにし、pseudo washout sign を検討することは有用であると考えられます。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

平成 2008 年 2 月から 2010 年 11 月の間に肝腫瘍に対する精査目的の Gd-EOB-DTPA を使用した造影 MRI 及びダイナミック CT 検査を受けた患者さん

●使用するカルテ情報

年齢、性別、腫瘍の場所及び大きさ、MRI 及び CT の画像

[個人情報の取り扱い]

使用する情報からは、お名前や住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は使用しません。また、本研究への参加は強制ではありません。いつでも辞退が可能であり、辞退したからといって不利益を被ることは全くありませんので、参加辞退を希望される方は、「問い合わせ先」までご連絡ください。

[問い合わせ先]

〒890-8544(8520)

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1

TEL : 099-275-5417 FAX : 099-265-1106

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 放射線診療センター 医員

立山 暁大 (タテヤマ アキヒロ)

掲載ホームページアドレス ;

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~radiol/>